

# 国立競技場

2014.3.4  
Vol.602

**国立競技場** SAYONARA  
国立競技場  
FOR THE FUTURE



● 国立競技場の芸術作品や記念作品

● 国立競技場OB 中原久和氏に聞く  
明治神宮外苑競技場から1964年東京オリンピックまでの思い出



スタジアムツアー開催中!



第10回 JISSスポーツ科学会議

 国立登山研修所  
積雪調査

# NATIONAL STADIUM



国立競技場の芸術作品や記念作品

1964年東京オリンピック招致をきっかけに、スポーツに対する人々の関心が高まり、スポーツの中に「競う」ことだけでなく「美」を追求するという考え方が芽生えてきました。国立競技場は東京オリンピックを前に各企業の援助を受け、施設や敷地内に芸術作品を設置しました。また、東京オリンピック優勝者銘盤などの各種国際大会優勝者銘盤や、記念ポールなど、歴史を語るにふさ

わしい記念碑なども点在しています。国立競技場はまもなく解体されますが、これらの作品は基本的には保存することになっており、具体的な保存方法や活用方法については、解体が始まるまでに決定していきます。是非、国立競技場に足を運んでいただき、これら記念作品の実物を見て、歴史を感じていただければと思います。

① 聖火台 (バックスタンド中央)

1958年、国立競技場を建設する際、聖火台の設計は国立競技場の設計者・角田栄ほか4名によって行われ、製作は川口内燃鋳造所が担当した。鋳造所は、美術鋳造の名工である鈴木萬之助氏(当時68歳)に依頼した。しかし、第1回の鋳造が失敗となる。萬之助氏はその夜から再起不能となり、8日目に他界する。この仕事を引き継いだのが、その息子たちである鋳造師3兄弟である。三男文吾氏は亡くなるまでこの聖火台を毎年磨き上げに来場した。



③ 野見宿禰像 (メインスタンド向かって左)・



勝利の女神像 (メインスタンド向かって右) 作者：長谷川路可



<作者の言葉>  
向かって右側の塔には、栄光を意味するギリシャの女神が橄欖(かんらん=オリーブと訳すことがあるが別種類)と月桂冠を持つ高さ4mの立像があり、「美の象徴」とした。左側には、国技と呼ばれる相撲の元祖、野見宿禰(のみのすくね)で「力の象徴」とした。右側の像と同じ大きさである。白と黒のモザイクをもって端的に表現し、白の部分には淡色の色ガラスを混入してそれぞれのニュアンスを試みた。

⑤ 1967年ユニバーシアード東京大会優勝者銘

(代々木門入り左) 作者：中山克己

この記念碑は、1967年に行われたユニバーシアード東京大会の優勝者をたたえ、その名を刻印してあり、日本での大会を記念して屏風型をしている。



⑥ 1964年東京オリンピック大会優勝者銘盤 (正面玄関上外壁)



1965年6月23日に除幕式開催。徳島県特産の黒御影石(縦2m・横1m)のものを54枚並べて彫刻し、東京オリンピック大会優勝者をたたえている。

② 無題 (代々木門入り右) 作者：三井 泉



作者は1971年ミケランジェロ国際コンテスト金賞受賞をはじめ数々の賞を受賞している。大理石を使用した水泳のスタート像で、くりぬかれた部分にも女子選手の立像が見える。

④ よろこび (正面玄関の右脇壁面)

作者：寺田竹雄



<作者の言葉>  
玄関入口なので、明るくはあるが派手すぎないようにガラスモザイクを使用した。寄贈者がカメラ会社なので、カメラのレンズの形をある程度取り入れてデザインした。

⑦ 健康美

(正面玄関に向かって左)

作者：北村西望

作者は30歳の時、「自分は天才ではないのだから人が5年でやることを自分は10年かけても、やらなければならないのだ」と語っている。長崎にある「平和祈念像」は、彼の代表作のひとつである。



⑧ 青年像

(正面玄関に向かって右)

作者：朝倉文夫

作者の作品には動物(特に猫)が多いが、躍動感溢れるスポーツマンの人物像の作品も多く手掛けており、明治、大正、昭和を通じ、日本の彫塑界を先導した芸術家である。



⑩ 1991年第3回世界陸上競技選手権大会優勝者銘盤

(南入場口に向かい左)



カール・ルイスなどの名を散見できる。この大会の走り幅跳びでマイク・パウエル(米国)が樹立した世界記録8m95cmは、いまだに破られていない記録。

⑨ 槍投げ像 (マラソン門入り左)

作者：雨宮治郎

作者は大正・昭和に活躍した作家で、この「槍投げ像」は第15回帝展(1930年・昭和5年)の特選となった。槍の鋒先は、国立競技場に向かっている。



⑪ 出陣学徒の碑と同期の桜 (マラソン門入り左)

1943年10月2日特例公布に伴い、全国の大学、高等学校、高等専門学校の文科系学徒の徴兵猶予が停止され、約10万人の学徒がペンを捨て、戦場へ赴くこととなった。10月21日、明治神宮外苑競技場(現・国立競技場)では、東京周辺77校が参加して「出陣学徒壮行会」が折からの秋雨について挙行された。その脇に立つ「同期の桜」は、学徒出陣50周年の際、記念として植樹された。



⑫ 波 (千駄ヶ谷門入り右) 作者：吉田三郎



作者は大正から昭和にかけて、日本彫刻界の重鎮として活躍した作家。徹底した写真態度を示している。作風は、常に堅実で、男性像に傑作が多い。

⑬ 円盤投げ像

(デイスコポロス像)

(千駄ヶ谷門入り左) 作者：ミロン

1964年1月に「オリンピック1964年展」を西武百貨店で開催した時、ローマ国立博物館より取り寄せた実物の型抜き。



⑭ 御者像 (スポーツ博物館入口脇)

作者：ファルピ・ピニョーリ

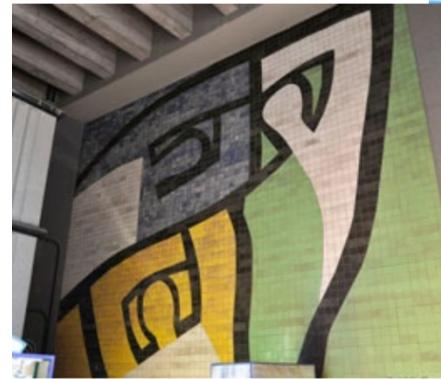
第11回オリンピックベルリン大会(1936年)で行われた芸術競技で金メダルを受賞した作品。古代オリンピックで行われていた馬車競技の一端だて馬車を操る御者をモチーフとしている。



⑮ 回廊の10壁画 (バックスタンド回廊)

作者：小林凱金

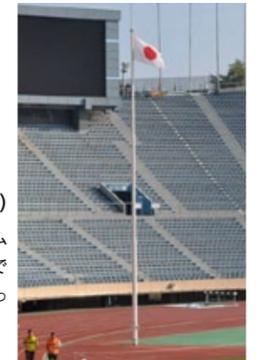
殺風景な回廊を美しくするため、二科会の大沢昌助、寺田竹雄、新制作派協会の脇田和、二紀会の宮本三郎の四氏の原画により、陶片モザイクでは最高技術者であった小林凱金氏が同モザイクで描いた壁画である。それぞれ「勝利の場」「友愛」「より速く、より高く」などオリンピックやスポーツが中心テーマとなっている。



⑯ 織田ポール

(第4コーナーフィールド内)

1928年第9回アムステルダムオリンピックの三段跳び競技で初の日本人金メダリストとなった織田幹雄氏を記念したもの。長さは優勝記録の15m21cm。



特集・SAYONARA国立競技場

**国立競技場OB 中原久和氏に聞く**

明治神宮外苑競技場から1964年東京オリンピックまでの思い出

国立競技場がまもなく解体されることに伴い、明治神宮外苑競技場から東京オリンピックまで、業務の裏側を知る国立競技場OBの中原氏へ、当時の様々な思い出を伺いました。



プロフィール

昭和23年 都立園芸高校卒業  
昭和27年10月 明治神宮外苑部に臨時職員として就職  
昭和28年4月～31年12月 明治神宮外苑競技場 勤務  
昭和32年 建設省関東地方建設局東京第一営繕工事事務所 工事設計事務室 勤務  
国立競技場に採用  
昭和33年4月 文部省オリンピック準備室へ外出  
昭和37年5月～38年3月 国立競技場 整備課 勤務  
昭和38年4月 国立競技場長  
平成2年 国立競技場長  
平成5年8月 定年退職

● 明治神宮競技場で働いたきっかけは？

高校卒業後、今でいうハローワーク（職安）で米軍の仕事があり、5年間は米軍で働き、その後明治神宮（内苑）に勤めていた兄の紹介で、神宮外苑部に勤務することになりました。外苑競技場で5年、国立競技場で35年働き、スポーツ施設としてはトータル40年間関わってきたことになりました。

● 明治神宮外苑競技場時代のお話を聞かせてください。

敗戦後は外苑一体を米軍が接收、管理下に置いていたために、陸上競技場は「ナイルキニック・スタジアム」と名前が変わり、接收解除までそう呼ばれました。接收解除後もアメリカンフットボール（陸・海・空・海兵）対抗戦がよく行われたことが記憶に残っています。観客も選手の家族や仲間も米軍の人たちばかりでした。試合の日は米軍専用売店でハンバーガーやホットドッグ、コカ・コーラが売られていてお祭り騒ぎでした。我々職員にも当時珍しかったこれらのものが提供されました。

私は、事務と管理業務（走路・芝生）をしていました。春・秋は陸上競技、夏は神宮外苑プールで仕事をしていました。サッカー・ラグビーは冬のスポーツでした。陸上競技場では、有料の大会時は入退場口から中の競技が丸見えになるので、高い柵に幕を張る作業もありました。

● 国立競技場の建築エピソードを教えてください。

第3回アジア大会開催が決まり、神宮外苑陸上競技場跡地に国立競技場を建てるにあたっては、国と神宮外苑との間で長い期間様々の問題で折衝を重ねた結果、ようやく折り合いがついたわけですが、外苑部から樹木類を残すよう強い要望があり、ランプ（千駄ヶ谷スロープ）の樺の木、緑地内の銀杏、桜の木等、その他常緑樹も残すことになりました。他にも千駄ヶ谷門や代々木門にある石垣も、江戸城の石垣を使用していて、歴史的価値があるということで残されたものです。

また、観客用トイレは、ハーフタイム後や試合終了後に一斉に混み合い、特に寒い時期は激しく混みます。この事実は外苑時代に経験していたので、建築法の範囲内なるべく多

く造ってもらいたい、と設計者に要望しました。

工事施工では、競技場が楕円形のため、サッシ（窓枠）の設置には施工者はたいへん苦労していたようです。

織田幹雄氏のボールの設置については、織田氏が三段跳びで外苑陸上競技場において世界記録を出し、またアムステルダム五輪では日本人初の金メダルを獲得しました。これらの偉業をたたえ、記念ボールを建ててはいかがか、と提案し、当時建設省工事設計室の室橋技官に伝え、技官が関係者と協議して実現に至りました。

● 聖火台設置にも苦労があったのでしょうか。

競技場建設当時は今の場所ではなく、日本青年館側（南側）スタンド上部に設置されていました。聖火台のデザイン（形）については、連日のように会議を重ねて検討していました。当時私は工事設計事務室にいましたが、日本古来の土器はどうかと提案し、前述の設計事務室室橋技官がこのことを踏まえて研究、意見を集約して原型が生まれ、それをもとに川口市の鋳物師鈴木萬之助氏が制作したのです。

また、同技官はこの聖火台の中の火の出るところに敷き詰められた石について、高熱でも弾けない、ユラユラとした炎が出る石を探すのにたいへん苦労したようです。

● 地下にトイレ（フィールド競技者用のトイレ）が設置されたようですが、

これは国立競技場当初に設置されたもので、設置場所が狭いこともあって男性用だけのトイレだったのですが、女性にだって必要、不公平じゃないかと提案し、室橋技官が八方手を尽くしてやっとTOTOの男女兼用トイレにたどり着いたわけです。ただ、実際はあまり使われなかったと聞きました。

● 完成直後の国立競技場を見て、どう感じましたか。

私は建設当初から、設計室から毎日建設現場で次第に出来上がってくる競技場を見ていましたが、連日連夜遅くまでの工事が続きました。まさに突貫工事でした。そして完成した競技場を目の当たりにして、全体の偉容、スタンドを支える

柱の連なる威容さに圧倒されました。この建造物に関われたことに誇りを感じました。

● ゴルフ練習場があったそうですね

ゴルフ練習場は、陸上競技場の未利用期間の有効活用として始めたものです。日本青年館側のスタンドに設けた打席から電光掲示盤方向に向かってグラウンドに打つのです。距離が250ヤードくらいあって当時はたいへんな人気で盛況でした。ただ、この盛況はボール拾いには問題が生じます。ボール拾いは危険なので、拾う際は一時打つのをやめてもらうのですが、盛況の時はボールが足らなくなり、やむを得ず打っている時に拾うことになります。

金網製のダルマ型のかごで全身を保護し、中に入るようにしてかごを背負ってボールを拾うのです。走路がウレタン樹脂系のもに変わり、トレーニング用として利活用されることになったため、営業を終了しました。

● 1964年東京オリンピックを迎えるまでの中原さんの仕事は？

1962年頃から東京五輪開催まで、日本陸連が1964年の東京五輪のために設置した陸上競技用器具委員会の委員となり、陸上競技用器具全般についての研究、改良・開発に携わりました。この間に手掛けた主な陸上競技用器具は、バトン、スターティングブロック、走り高跳び・棒高跳びピット（着地場）、ハードル運搬車、風向風速計（風洞型）、砲丸・ハンマー（材質の研究）、砲丸返送台、フィールド用電光掲示板などのほか、外国製も準備しなければならず、多岐に及びました。外国製においては各国のメーカーから輸入しました。

競技の距離を計測する巻尺も温度に左右されない金属を使

用し、高度計（棒高跳び・走り高跳びで使用）の素材はステンレスを使用しました。風向風速計も風洞型にしたことで、計測レベルは飛躍的に向上したと思います。

● オリンピックが決まってどうでしたか？

1959年に東京オリンピックが決まったときは、「やっぱり来るか」という感じでしたね。招致には一度失敗していましたが、第3回アジア大会を成功させたことで、その流れが招致成功を予感させていました。

● オリンピックの思い出

オリンピック前夜が豪雨だったため、開会式ができないのではないかと言われていたのですが、当日は快晴となりました。開会式の式典時は、万が一の事故に備え連絡係として事務室に上司と私二人だけが残りました。式典はテレビで見えています。ただ、聖火点火のときは上司に「行って見てもいいよ」と言われて坂井義則さんの聖火台の点火だけ見たことを覚えてます。

開催期間中は正直、競技の結果より毎日の準備と競技が終わってからの清掃や走路と芝生の整備、用器具の整備・点検に力を注ぎました。

● 来年取り壊され新しい国立競技場になりますが、受け継いで欲しい思いは？

オリンピック後の維持管理コスト、管理運営が非常にたいへんだと想像できますが、この地域がスポーツのメッカであり続けて欲しいと願っています。なお秩父宮記念スポーツ博物館も貴重な収集資料が多くあるので、残していただきたいと思います。

**SAYONARA国立競技場プロジェクト**  
**スタジアムツアー開催中！**

今年7月から解体工事に入る国立競技場の歴史に敬意と感謝を表すため、「SAYONARA国立競技場プロジェクト」スタートさせました。

このプロジェクトの一環として、これまでも好評をいただいていた国立競技場スタジアムツアーを1月中旬より実施しています。

選手更衣室やロイヤルボックスなど普段見られない場所を、その場所にま

つわるエピソードとともにガイドがご案内します。

現国立競技場の姿が見られるのもあと数か月。たくさんの方々へ国立競技場の歴史にふれ、その姿を目に心に焼き付けていただけたらうれしいです。

是非、ご家族・ご友人お誘い合わせの上、国立競技場スタジアムツアーにお越しください！

SAYONARA国立競技場プロジェクト・スタジアムツアーの詳細はこちら  
<http://www.jpnsport.go.jp/SAYONARA>



昨年11月29日(金)に、NTC及びJISSにて開催された「第10回JISSスポーツ科学会議」についてご報告します。毎年、年1回開催されるこのスポーツ科学会議も今回で10年目の節目を迎えました。5月から実行委員会を立ち上げ、これまで重ねて来た歴史を振り返りながら、何かふさわしいテーマと新しい内容はないかと、議論を重ねた結果、10回目のテーマは「JISSサイエンスフェア」に決まりました。

例年は1日全体を講演する方法で実施していましたが、今回は午前の部を講演とし、午後の部はJISS施設内に研究や支援に関連するブースを出展しました。これは実際に日頃JISSで行われている研究やサポートなどを、参加する方が自由にブースを見学しながら、自らが体験できる参加型形式をとり、JISSの活動を少しでも体で理解していただくという初の試みとなりました(体験は事前にJSCホームページにて予約)。

## 午前の部

国内外の識者による2講演が行われました。国外からはイギリスのシェフィールド・ハラム大学の工学研究センター所長であるDr.Steve Haake氏を招聘しました。講演は「2012年ロンドンオリンピックにおけるスポーツ工学の面からのサポート」について講演していただき、スポーツ工学技術を駆使したパフォーマンス向上のためのスポーツ工学の役割や活用についての解説、ロンドンオリンピックまでの準備期間中に実施した実際の活動について具体的な事例を取り上げてご紹介いただきました。

二番目の講演は日本卓球協会スポーツ医・科学委員会副委員長であり、静岡大学教育学部教授の吉田和人氏。テーマは「卓球ナショナルチームのロンドンオリンピックに向けた取組み」で、試合分析サポートとして卓球用に開発されたソフトの活用や2006年頃から利用してきた携帯型映像活用システムを構築した映像利用サポートなど、オリンピック期間前後やオリンピック会場における実際に行われた各種サポートなどについて講演をされました。



英国紳士そのもののHaake氏

## 午後の部



レストラン「R<sup>3</sup>」での栄養指導



ITユニット

陸上実験場には5つのブースが点在

会場をJISSに移し、参加・体験型のサイエンスフェアを開催しました。各研究グループが数カ月前から検討し、募ったブースをJISS内の各施設に展開。参加する方々が自分の希望したブースを訪れる姿は、手作りの「学園祭」のような雰囲気でした。メイン会場となった1階陸上競技実験場には「スポーツバイオメカニクス」、「測定技術」、「コンディショニング」、「トレーニング科学」、「ITユニット」、「メディカルセンター(アスリートリハビリテーション/女性アスリート支援)」の計6ブースを設置したほか、サポートに関する相談窓口を設けて、研究やサポートのご質問やご意見など、現場からの「生の声」に触れることができました。その他、新しくできた風洞実験棟、ハイパフォーマンス・ジム、栄養指導レストラン「R<sup>3</sup>(アールキューブ)」等でもブースが展開されました。特に人気が高かったのは心理ブースで、実際に行われているアスリートと同じ検査「メンタルチェック」が体験できることや、メンタルトレーニング講習などについて、高い感心を持たれたようでした。



ハイパフォーマンス・ジム

今回の一般の参加者数は約200名で、地方自治体や各地域の体育協会関連等から参加された方が多く、昨年9月に決定した2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催の影響もあり、スポーツにおけるサポートする側からの関心や興味も高まっていることが肌で感じられました。

なお、初の試みとなったブース出展による参加・体験型の方法については、会議終了後のアンケートなどにより参加者の皆様からも好評を得たことがわかりました。

今回の会議を通じてJISSへの理解を深めていただくとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてさらに関係団体との連携が深まり、7年後の同大会の成功への気運が少しでも高まれば幸いです。

最後にこの会議を開催するにあたり、様々な分野からご協力いただいた関係者の皆様に対し、感謝するとともに深くお礼を申し上げます。

国立登山研修所は、今季の冬山シーズンの積雪調査(第1回)を1月7日(火)に実施し、2月末までに計7回実施しました。積雪調査は、平成22年から実施しています。積雪調査の目的は、積雪内部構造を調査し雪崩が発生しやすい弱層などを事前に把握したり、他の場所のデータと比較検討して周辺山域の積雪状況を推測したりすることにより、研修会や立山山域の登山者の雪崩事故を未然に防ぐことです。

調査は、立山山麓スキー場上部(標高1,100m)の定点でピット(全積雪断面)を掘り、温度計やルーペなどを利用し、10cm毎の雪温と雪質を調べる積雪断面観察と積雪層に衝撃を与えて不安定な層を見つける弱層テストを行っています。

現在までの調査で降雪時の気温や日照によって表面雪温が高くなるなど積雪層に急激な温度変化が見られる時に弱層が生じやすいことが検証されました。

なお、平成15年から国立登山研修所内(標高480m)の詳細な積雪深観測を開始し、平成21年には、大日岳への稜線上の冬山前進基地(標高1,300m)において積雪深と気温の自動計測及びデータ通信を開始しました。これは、これまで未知だった標高1,500m付近の気象条件をリアルタイムにモニターできるようにする試みで、得られたデータは研修会での行動判断に活用しているとともに年間でまとめて国立登山研修所定期刊行物「登山研修」で公表し、安全登山のためのデータとして活用されています。

また、上記3地点の観測データについては立山砂防カルデラ博物館との「山岳地帯の気象・冬山積雪調査研究等に係る連携・協力に関する基本協定書」により、室堂(標高2,450m)の気象・積雪観測データともあわせて調査研究し、立山一帯の気象や積雪状況を把握して山岳遭難事故防止に役立てています。



弱層テスト

積雪断面観察1



積雪断面観察2

積雪調査用具

2014

## SCHEDULE

3・4


**SAYONARA**  
**国立競技場**  
 FOR THE FUTURE

## 国立競技場

サッカー	キリンチャレンジカップ2014 SAMURAI BLUE (日本代表) vs ニュージーランド代表 (3/5)
ラグビー	第51回 全国ラグビーフットボール選手権大会 決勝 (3/9)
コンサート	ももクロ春の一大事2014 国立競技場大会 ～NEVER ENDING ADVENTURE 夢の向こうへ～ (3/15-16)
コンサート	L'Arc～en～Ciel LIVE 2014 at 国立競技場 (3/21-22)
コンサート	AKB48コンサート (仮) (3/29)
コンサート	AKB48グループコンサート (仮) (3/30)

## 代々木第一体育館

ファッションショー	第18回 東京ガールズコレクション 2014 SPRING/SUMMER (3/1)
コンサート	musicる fes2014 (3/2)
コンサート	miwa spring concert 2014 “渋谷物語～完～” (3/8-9)
フットサル	PUMA CUP 2014 第19回全日本フットサル選手権大会 (3/14-16)
コンサート	2PM ARENA TOUR 2014 "GENESIS OF 2PM" (3/17-18)
ファッションショー	東京ランウェイ2014 SPRING/SUMMER (3/21)
コンサート	androp one-man live 2014 at 国立代々木競技場・第一体育館 (3/23)
コンサート	2PM ARENA TOUR 2014 "GENESIS OF 2PM" (3/25-26)
バスケット	第45回全国ミニバスケットボール大会 (3/28-30)
アイスショー	STARS ON ICE JAPAN TOUR 2014 (4/12-13)
ファッションショー	GIRLS AWARD 2014 SPRING/SUMMER (4/19)
卓球	JA全農2014年世界卓球団体選手権東京大会 (4/28-5/5)

## 秩父宮ラグビー場

ラグビー	サントリーカップ 第10回全国小学生ラグビー選手権大会 (3/8)
ラグビー	HSBCセブンズワールドシリーズ 東京セブンズ 2014 (3/22-23)

## 代々木第二体育館

卓球	第19回ジャパントップ12卓球大会 (3/1)
バスケット	第15回Wリーグ アイシンAW vs 山梨/デンソー vs 三菱電機/ 羽田 vs 富士通 (3/2) 山梨 vs アイシンAW/三菱電機 vs デンソー/ 富士通 vs 羽田 (3/3)
バスケット	NBDL2013-2014 東京EX vs 豊田合成/黒田電気 vs 鹿児島 (3/8) 黒田電気 vs 鹿児島/東京EX vs 豊田合成 (3/9)
バスケット	第15回Wリーグ 日立ハイテック vs 山梨/デンソー vs シャンソン/ JX-ENEOS vs 羽田 (3/15) 山梨 vs 日立ハイテック/シャンソン vs デンソー/ 羽田 vs JX-ENEOS (3/16)
バスケット	平成25年度東京都実業団バスケットボール冬季大会 (3/21-22)
拳法	第3回全日本拳法選手権大会 (3/23)
ダンス	Dance Remix 47 Vol.0 (3/25)
バスケット	第45回全国ミニバスケットボール大会 (3/28-30)
バスケット	NBL2013-2014 日立東京 vs 東芝神奈川 (4/4-5)
バスケット	第15回WJBLセミファイナル (4/6,8)
空手	POINT&KO空手道選手権大会 (4/12-13)
プロレス	『STRONG STYLE RETURNS PROJECT ～元大相撲関脇 貴闘力プロレスデビュー戦～』 (4/16)
バスケット	NBL2013-2014 トヨタ東京 vs 日立東京 (4/18-19)
バスケット	第15回WJBLプレーオフファイナル (4/20-21,23)

## 味の素フィールド西が丘

サッカー	第10回関東大学女子サッカー東西対抗戦 (3/8)
サッカー	第16回日本フットボールリーグ 1stステージ 第1節 横河武蔵野FC vs ヴァンラーレ八戸 (3/16)
サッカー	第24回イギョラ杯国際親善ユースサッカー大会 (3/19)
サッカー	第13回全国シニアサッカー大会 (Over50) 東京都決勝大会 (3/30)

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。● <http://www.jpnsport.go.jp>

発行回数変更の  
お知らせ

当紙は1958年に創刊し、2004年5月からは年6回発行してまいりましたが、2014年7月に予定されている国立競技場解体に伴い、本号（2014年3-4月・第602号）発行以降は当面の間、発行回数を年2～3回とさせていただくことといたしました。回数は減りますが、今後も新国立競技場の建設経過やその他スポーツ施設に関する情報をご提供していく予定です。なお、次号の発行は2014年8～9月頃を予定しております。引き続きご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)  
 秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)  
 味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

## 編集後記

お知らせにも掲載したとおり、今号を以って当面の間、発行回数を調整することとなりました。国立競技場の業務が終了することは影響が大きく、休刊もしくは廃刊も考えましたが、国立競技場建設当時から休むことなく発行し続けてきた歴史を途絶えさせる決断には至りませんでした。本紙は、国立競技場をはじめ各施設の歴史を振り返るための重要な記録資料の一つとして、価値ある存在となっています。今後もその価値を維持し続けるために充実した紙面を作っていきたいと考えておりますので、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。(h)

## 国立競技場 第602号

2014年3月1日発行

●編集・発行  
 独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室  
 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号  
 tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス

